



「性と健康を考える女性専門家の会」勉強会  
**母乳育児と女性の「マインドセット」**  
—授乳服のパイオニアが見た女性の困難さの原因—

講師 光畑 由佳 有限会社モーハウス 代表取締役  
NPO 子連れスタイル推進協会 代表理事

日時：2016年9月10日（土）18時～20時（17時30分 受付開始）

会場：朝日エル会議室 東京都中央区築地 2-12-10  
築地MFビル 26号館 5階

（東京メトロ日比谷線築地駅2番出口 1階にソフトバンクが入っているビルです）

参加費：会員 1,000円 非会員 2,000円 学生 500円  
（当日受付でお支払いください）

参加申し込み：お名前、ご所属、会員／非会員 ご連絡先を明記の上  
「性と健康を考える女性専門家の会」事務局まで  
メールでお申込ください。 [pwcsh@ellesnet.co.jp](mailto:pwcsh@ellesnet.co.jp)

---

日本産科婦人科学会によると、東京 23 区で 2005 年から 2014 年に亡くなった妊産婦さん（産後 1 年後まで）の死因で、最も多かったのが自殺だった。出産し、我が子を抱くという一見幸福の象徴にある女性たちが絶望のうちに自ら命を立つ。そんな状況がなぜ起きているのか…。

子育てにつきまとう「困難さ」が社会問題となっています。どうすればその困難さから女性たちを解き放つことができるのか。社会制度やサービスは十分なのか。女性たち自身の意識はどうか。

モーハウスや子連れスタイル推進協会の取組みは「子育てと社会がつながることへの困難さ」の一つの象徴的な事象「外出時の母乳育児の困難さ」を、授乳服というソリューションで解決できないか、ということから始まっています。しかしその普及には、思いがけないハードルがありました。このハードルは、女性の社会進出における課題と似ています。

その意義と課題を、国内外の女性問題の会議で得た示唆から考え、女性自身のマインドセットをどう取り払うかの打開策をディスカッションしたいと思います。

#### 【講師プロフィール】

倉敷出身。美術企画、建築関係の編集者を経て、1997 年、自身の電車内での授乳体験をきっかけに、産後の新しいライフスタイルを提案する「モーハウス」の活動を開始。社会と子育てをつなぐ環境づくりのため、授乳服の存在を国内に広めてきた。同時に自社で実践する「子連れワークスタイル」は古くて新しいワークスタイルとして国内外から注目され、女性のチャレンジ賞など受賞歴多数。ネパールでの女性の仕事の創出、乳がんを含むユニバーサルデザインブラの開発等に取り組んでいる。政府関係の有識者会議委員ほか、2014 年北京、2016 年リマでの 2 度の「APEC 女性と経済フォーラム」で日本代表としてスピーカーを務めた。茨城県ユニセフ協会評議員。筑波大学大学院非常勤講師。茨城大学社会連携センター特命教授。三児の母。